

2019年11月6日(水) 場所:ユマニテクプラザ2階 (近鉄四日市駅)

○ 「地方都市再生のための都市計画に関する研究」 准教授:浅野聡(都市計画・防災計画)

浅野研究室は、地方都市再生のための都市計画について自治体との共同研究を通じて取り組み、研究成果は、自治体の関連計画や事業に反映されています。主なテーマは、都市計画マスタープラン、景観計画、歴史まちづくり計画、南海トラフ地震後の震災復興計画等です。

○ 「実測・文献調査から文化財登録まで」 助教:大井隆弘(日本・近代建築史)

日本建築史を専門とする本研究室では、県内の自治体等と協力し、歴史的建造物を中心とした実測・文献調査を実施しています。この調査を通して、文化財指定や登録を目指す建造物の基本的情報を把握し、歴史的価値を明らかにします。

○ 「公共文化施設と制度」 准教授:大月淳(建築計画)

縮退社会下に再編が不可避な公共施設群にあって、その位置付けが不明瞭な一方、様々な可能性が認められる劇場を中心とする文化施設について、法令を中心とする制度との対応から捉え直そうとする試みを紹介します。

○ 「学校施設再編と中学校の建築企画の策定」 教授:富岡義人(建築設計・建築意匠)

三重県北勢地区のある自治体との共同研究に基づく、公立学校群(保育園+幼稚園+小中学校)の再編・統合・建築設計の計画全般について、事例に即して具体的に説明します。

○ 「集成材・LVL等の鋼板補強の技術的発想とその利用」 助教:田端千夏子(木質構造・建築構法)

ロール供給可能な有孔爪薄鋼板を内装する集成材・LVLの製造方法・構造強度・利用方法にわたるアイデアを説明します。既存の製造工程に無理なく挿入でき、木質材の利用促進、エンジニアリング・ウッドとしての性能信頼性の向上に資すると考えています。

○ 「災害から命をまもるハード・ソフトの開発」 准教授:川口淳(建築構造・地震防災)

主に地震災害から命をまもるために共同研究で開発を進めた、耐震シェルター関連製品の紹介と、地震災害発生時に重要な役割を果たすことができる情報集約システムの開発研究を紹介します。

○ 「地震工学の応用—歴史的建築の耐震対策から先端技術工場の微振動制御まで」 教授:花里利一(地震工学)

地震工学分野で研究を進めてきた知見や技術を応用し、歴史的建造物の耐震診断・補強から、先端技術生産施設等の外部振源による環境振動制御技術の開発に取り組んできました。また、伝統技術と新技術の融合による伝統的木造建築物の耐震技術開発も産学共同で進めています。

○ 「透水性コンクリートの技術開発など」 教授:畑中重光(鉄筋コンクリート)

コンクリート材料および鉄筋コンクリート構造の幅広い研究を行っています。本セミナーでは、集中豪雨対策としてのポーラスコンクリートの技術開発と応用を中心に、産学連携が可能なテーマについて紹介します。

○ 「永井研究室での研究テーマとその一例紹介」 教授:永井久也(建築環境設備)

当研究室でこれまで実施してきた建築熱環境、建築設備分野での研究テーマを紹介し、その一例として、建築物の断熱性能の簡易実測評価手法を戸建て住宅を対象した事例を説明(紹介)します。

○ 「音と建築」 准教授:寺島貴根(建築環境設備)

快適な室内音環境の構築を目的として、建築音響の研究に取り組んでいます。室内の音環境は騒音のみならず反射音の影響を受け、これらを建築的に制御する必要があります。反射音構造と聴覚との関係を研究しています。

○ 「エネルギー有効利用のための蓄熱技術」 准教授:北野博亮(建築設備)

関心が高まっている建築物のエネルギー自給に向けて、省エネと創エネに加えエネルギーの需給調整を可能にする蓄熱技術が求められます。研究室で取り組んできた蓄熱槽の設計・性能評価の研究について説明します。